

# 森・川・海を通じた生物多様性 の保全の推進

# 森林と漁場保全 ①

## 豊かな命を育む森林と海のつながり

我が国は森林国かつ海洋国。海は陸の森林から大きな恩恵を受けていると同時に、森林の環境悪化は海にも大きな影響を与えます。



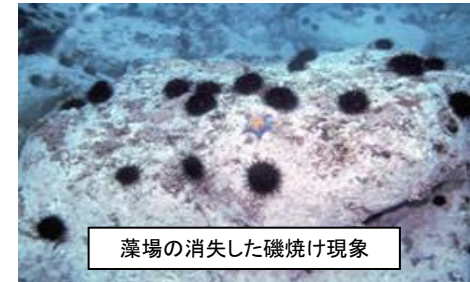
### ○ 水産生物の産卵や幼稚魚の生育の場となる藻場・干潟

藻場・干潟は、漁業生産を支え、産卵や幼稚魚の育成の場となるなど海の資源を育てています。

藻場などを有する豊かな海を維持するために、森林が土砂流出を防止する機能や、森林土壌などから供給される腐植酸による栄養塩類の吸収能力を高める機能が役立っていると言われています。



豊かな藻場

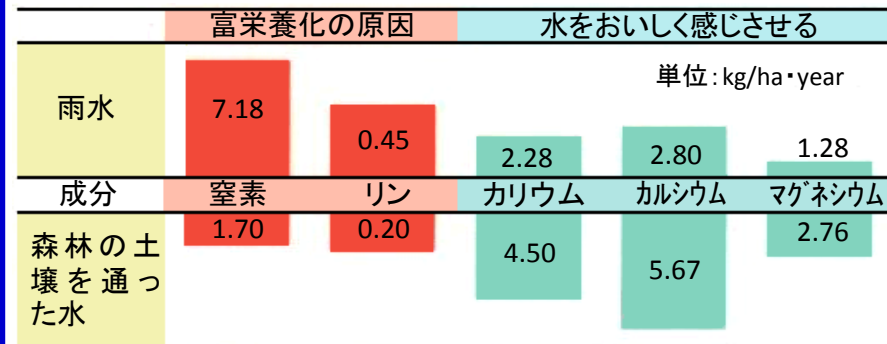


藻場の消失した磯焼け現象

### ○ 森林は水質を浄化し、土砂の流出を防止する

森林が雨水による土砂の流出を防ぐとともに、雨水が森林の土壌を通過することにより、ミネラルが増加しています。

森林はおいしい水を供給し、生き物のすみかとなる海藻を育てています。



「森は海の恋人」という言葉は、気仙沼市大川流域に住む歌人熊谷龍子さんの「森は海を 海は森を恋いながら悠久よりの愛紡ぎゆく」という一首から生まれました。



## ○魚つき保安林の指定・管理

水面に対する森林の陰影の投影、魚類等に対する養分の供給、水質汚濁の防止等の作用により魚類の棲息と繁殖を助けるため、現在、約5万8千ha指定されています。



魚つき保安林

## ○漁場保全の森づくり推進事業

平成19年度から林野庁と水産庁の連携により、漁場環境の保全に資する森づくりを推進しています。



## 漁民による森づくり

漁民による森づくりは、全国的な広がりをもつ運動となっています(平成21年度現在で177ヶ所)。

### ○気仙沼「牡蠣の森を慕う会(NPO法人森は海の恋人)」

気仙沼湾は湾内に流入する大川の恵みを受ける牡蠣の産地ですが、漁場環境が年々悪化していたため、牡蠣養殖業を営む畠山重篤氏を中心に「森は海の恋人」というスローガンを掲げ、漁業者、地域住民が平成元年から大川上流の室根山の植樹等の活動を進めています。(今年も6月5日に実施)



この取り組みは、小中学校の教科書でも取り上げられています。

### ○襟裳岬「えりも岬の緑を守る会」

明治以降の開拓、放牧等により、襟裳岬は「えりも砂漠」と言われるほど荒廃していました。

このため、昭和28年に国有林が緑化事業に着手し、漁民の方々の協力も得ながら、森林の再生を行っています。

この結果、森林の復元により海もまた生き返り、漁獲量は飛躍的に増加しました。

